

## 雨飾山山行報告



- 【山行日】** 2017年 9月 24(日) 晴れ  
**【集 合】** 岩舟支所P AM 3:00  
**【費 用】** マイカー1台 : 4,300円  
**【メンバー】** CL: 鈴木、小松原、関、田中、津佐、  
藤原、松舘  
**【コースタイム】** 岩舟支所 P3:00=雨飾山登山口  
P6:20/6:50~荒菅沢 8:30/8:40~笹平 10:10~  
雨飾山 10:40/11:30~笹平 12:00~荒菅沢 13:00  
~登山口 P14:30/14:45=岩舟支所 P19:40

雨飾山に行きたいとリクエストがあり、ちょっと大変だが日帰り登山の計画を立てた。この時季は駐車場が心配なので、岩舟支所3時出発にしたが駐車場は満車で、少し戻って路肩の空きスペースに止めた。登山の準備を整え、駐車場の奥の休憩舎に行く。休憩舎にはトイレや水道が整備されている。トイレを済ませ、ストレッチをしたら出発する。登山道は休憩舎の裏から大海川沿いの河原まで緩やかに下って行く。河原は湿地帯になっており、木道が整備されている。木道沿いに小沢が流れており、よく目を凝らすと岩魚が泳いでいる。木道が終わりさらに河原を進むと、道は左の尾根に取りつく。ここから急登が始まるが、尾根から山腹を登るようになると登りも緩やかになってくる。やがてブナの大木が目立つようになると道も巻道らしくなって、山腹を小さなアップダウンを繰り返しながらゆっくりと登って行く。落葉樹が多いが、まだこのあたりは紅葉が始まっていない。突然視界が開け、山腹を下って行き荒菅沢を渡渉する。渡渉した先のガレた河原で休憩し、ミカンや菓子を食べてエネルギーを補給する。左の稜線を見上げると、布団菱の岩壁に圧倒される。



山山頂にガスが掛かり始めた。

ここからは尾根の急登が始まり、樹林帯の中の急登が続くがーがんばりで尾根の上部に出て、登りも楽になる。視界も開け、荒菅沢の全貌と紅葉した雨飾山の頂上が見えてくる。やがて滑りやすい岩場の急登になり、後ろの二人が遅れ始めた。岩場の急登を越えると、登山道は緩やかな起伏の稜線を歩くようになり、金山からの主稜線に出る。ここで後続の二人を待ち、二人が到着してリンゴを食べて雨飾山山頂へ向かう。さっきまで青空だったが、雨飾

笹原の道を少し下ると雨飾温泉への分岐がある笹平に出る。分岐から緩やかに登り、荒菅沢をのぞき込むような崖つぶちを過ぎると急登となる。急登を一がんばりで雨飾山山頂だが、後の二人が遅れ始めた。登山道が狭く途中で待てないので、山頂まで登って二人を待つが中々登ってこない。松ちゃんに様子を見に行ってもらい、ようやく二人が登って来た。Kさんの調子が悪く遅れたようだ。少し早いランチタイムとし、チタケうどんを作り始める。途中でお椀が無いことに気が付き、「器を忘れた、どうしよう」と言うと、T中さんが「大丈夫ペットボトルをカットすれば器は出来る」と言って、ペットボトルで器を作ってくれた。テルモスの蓋やフルーツの器など、それぞれ違う器に自分でうどんを取って無事食べることが出来た。それにしても加齢に伴う痴呆が加速しているようで恐ろしい。ランチが済んだら山頂で全員集合の写真を撮



り、もう一つの山頂の南峰に移動する。ガスで見通しが良くないが、時折晴れると紅葉の峰々が美しい。南峰には4体の石仏と祠があり、石仏越に記念写真撮り下山する。下山は往路を戻るが、ガスが晴れ笹平からの稜線が見渡せとても美しい。

その美しい稜線を歩き、登って来た急な岩場を下り荒菅沢を渡り返す。少し登り返すと下りになり、ブナの大木の平らな場所で最後の休憩を取り一気に下る。木道の湿原を過ぎると緩やかな

登りになり、休憩舎がある駐車場に着く。トイレ前の水道で靴を洗い、車まで行き靴を履き替え帰路につく。途中、道の駅「中条」に寄り、キノコやリンゴのお土産を買い岩舟支所に向かった。上信越道で渋滞があり、さらに岩舟JCTから佐野藤岡ICまでが渋滞で40分遅れて岩舟支所に帰着した。

